

2001年第22週報告分

- 発生動向総覧／調査票通信／保健所通信
- 全数届出患者数一覧表
- 定点報告疾患集計表
- 疾病別グラフ
- 地域別分布図
- 年齢階級別累計表
- 保健所別累計表
- 感染症トピックス

《東京都(平成12年度)における
デングウイルス感染例》

東京都結核・感染症発生動向調査企画委員会

事務局:東京都立衛生研究所疫学情報室

電話:03-3363-3213(直通)

FAX:03-5332-7365

E-mail: idsc@tokyo-eiken.go.jp

アドレス: www.tokyo-eiken.go.jp/IDSC/

（全数情報）

- ・コレラが1件報告された。エルトール小川型で推定感染地は台湾である。
- ・細菌性赤痢が1件報告された。フレキシネリ菌で、推定感染地はミャンマーである。
- ・腸管出血性大腸菌感染症が10件報告された。O157が8件、O111およびO26が各1件検出された。毒素型は、VT1+VT2が2件、VT1が1件、VT2が6件、VT陽性が1件である。入院は6件でHUSは認められなかった。家族内発生が4件あった。推定される感染地は国内9件、不明1件である。
- ・アメーバ赤痢が3件報告された。推定感染地域はそれぞれケニア、ウズベキスタン、国内である。
- ・オウム病が1件報告された。ペットのインコよりの国内感染が推定されている。
- ・急性ウイルス性肝炎が9件報告された。A型は4件で推定感染地は国内2件、中国1件、イタリア1件である。B型は4件でいずれも国内での感染が推定され、推定感染経路は異性間性的接触3件、同性間性的接触1件である。C型は1件が報告された。
- ・HIV感染症は6件の報告があった。無症候性キャリアが4件でAIDSは2件である。
- ・梅毒は3件の報告があった。無症候梅毒が1件で、早期顕性梅毒が2件であった。
- ・バンコマイシン耐性腸球菌感染症が1件報告された。68歳の男性で尿カテーテルより分離された。Van遺伝子型は不明である。
- ・マラリアが2件報告された。いずれも熱帯熱マラリアで、推定感染地はタンザニア、パプアニューギニアである。
- ・レジオネラ症が1件報告された。尿中抗原陽性で、温泉での感染が推定されている。

（推定される感染地域は、医師の届出によるものです。）

（定点情報）

引き続き麻疹、伝染性紅斑の報告数が多い。流行性耳下腺炎の報告も多く、咽頭結膜熱、手足口病が増加傾向にある。

（病原体情報）

- ・定点病院から搬入されたMRSA 8株はコアグラ - ゼ 型が7株とコアグラ - ゼ 型が1株であった。溶血性レンサ球菌3株のT型は1型、3型及び4型が各1株であった
- ・ブドウ球菌性表皮剥奪性皮膚症候群様発疹患者の咽頭拭い液からコアグラ - ゼ 型、表皮剥奪毒素B産生性のMRSAが検出された。
- ・肺炎患者の鼻汁液からRSウイルスが検出されている。
- ・上・下道炎、急性胃腸炎などの患者7名の咽頭拭い液、便からアデノウイルスが分離され、そのうち2名の咽頭拭い液からアデノウイルス3型及び6型がそれぞれ分離されている。

- ・気管支炎及び発疹の患者 2 名の咽頭拭い液から麻疹ウイルスが検出されている。
- ・流行性耳下腺炎患者の唾液及び咽頭拭い液からムンプスウイルスが検出されている。
- ・髄膜炎患者の咽頭拭い液からエコ - ウイルス 11 型が分離されている。
- ・扁桃腺炎患者の咽頭拭い液から単純ヘルペスウイルス 1 型が検出され、新生児ヘルペス患者の髄液から単純ヘルペスウイルス遺伝子が検出された。
- ・胃腸炎集団発生の検体が 7 事例 2 1 4 件搬入され、そのうち 3 事例 2 9 件から S R S V が、1 事例 6 件からロタウイルスが検出された。

(その他の情報)

今週のウイルス関連検体搬入状況は、上・下気道炎の検体が半数を占め、脳・神経疾患が約 1 5 % で続き、その他に、胃腸炎、発疹性疾患、心筋炎、流行性耳下腺炎などであった。

調査票通信

定点医療機関からのコメントを掲載

台東区

麻疹でました。2 名とも予防注射未接種。

品川区

水痘 2 件は小学 1 年の同クラスの男児。またヘルパンギーナ 2 件は姉妹です。

練馬区

麻疹患者 (5 歳、幼稚園児) はワクチン接種歴有。

調布市

依然として小児、成人の感冒性胃腸炎が多い感じがします。

国分寺市

流行性耳下腺炎、1 歳 1 0 ヶ月男児は 4 歳兄から感染。

立川市

麻疹は全部別の地域での発症です。

東久留米市

月齢 5 ヶ月 2 2 日の麻疹例は母親の麻疹 (ワクチン未接種) からの感染例であった。

保健所通信

保健所からのコメントを掲載

今週は、保健所からのコメントはありませんでした。

全数届出患者数一覧表 2001年22週

分類	疾病名	東京都分(報告週)				全国分(診断週)
		19週	20週	21週	22週	22週
一類	エボラ出血熱					
	クリミア・コンゴ出血熱					
	ペスト					
	マ-ルブルグ病					
	ラッサ熱					
二類	コレラ				1	1
	細菌性赤痢	7	5		1	7
	腸チフス			1		1
	パラチフス	1	1			
	急性灰白髄炎					
	ジフテリア					
三類	腸管出血性大腸菌感染症	1	6	3	10	84
四類 (全数届出)	アメ-バ赤痢	1	1	2	3	5
	エキノкокクス症					
	黄熱					
	オウム病	1			1	
	回帰熱					
	ウイルス性肝炎(急性肝炎)	2	3	1	9	16
	Q熱					
	狂犬病					
	クリプトスポリジウム症					
	クロイツフェルト・ヤコブ病					3
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症					
	後天性免疫不全症候群	9	5	9	6	13
	コクシジオイデス症					
	ジアルジア症	2		1		4
	腎症候性出血熱					
	髄膜炎菌性髄膜炎					
	先天性風疹症候群					
	炭疽					
	ツツガムシ病		1			10
	デング熱					1
	日本紅斑熱					
	日本脳炎					
	乳児ポツリヌス症					
	梅毒	1	1	1	3	7
	破傷風					1
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症				1	1
	ハンタウイルス肺症候群					
Bウイルス病						
ブルセラ症						
発疹チフス						
マラリア		1	2	2	1	
ライム病						
レジオネラ症				1	1	

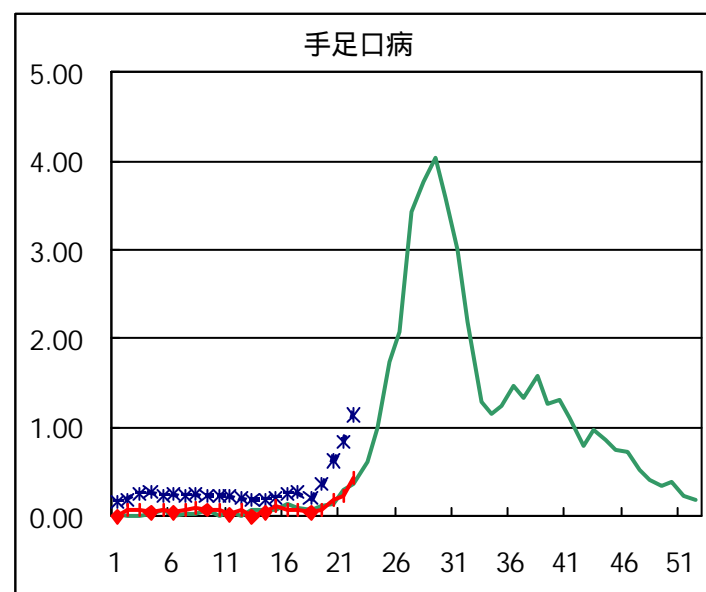
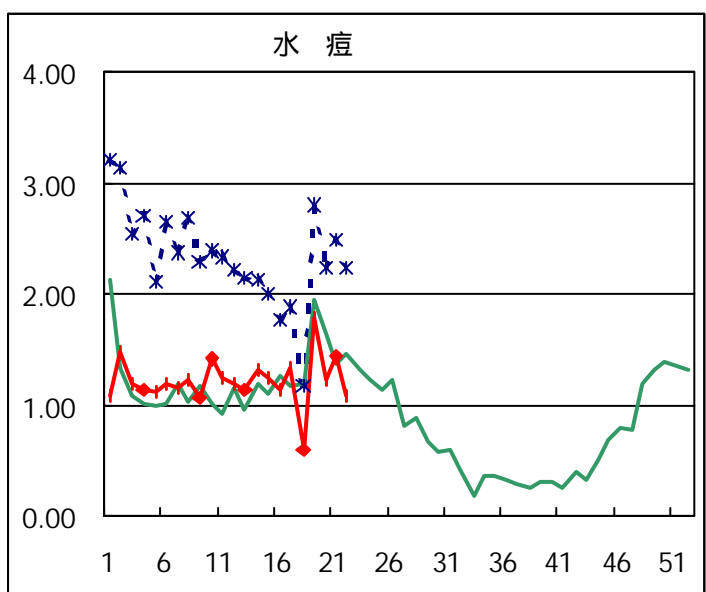
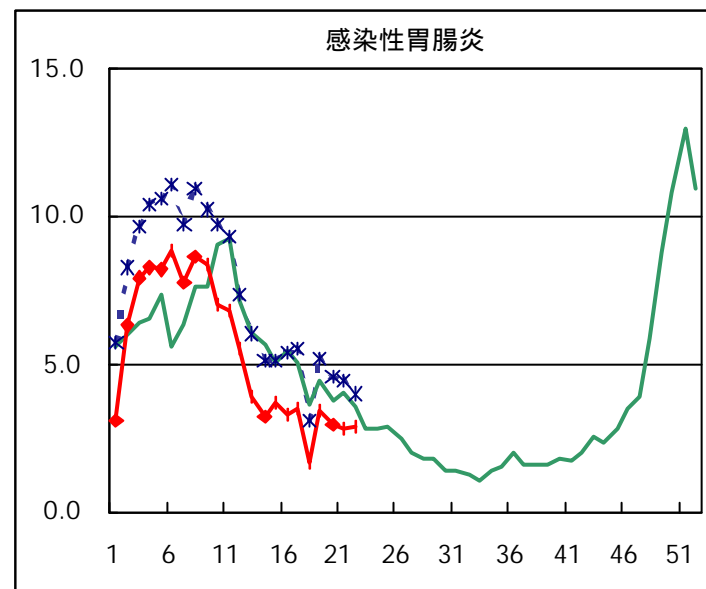
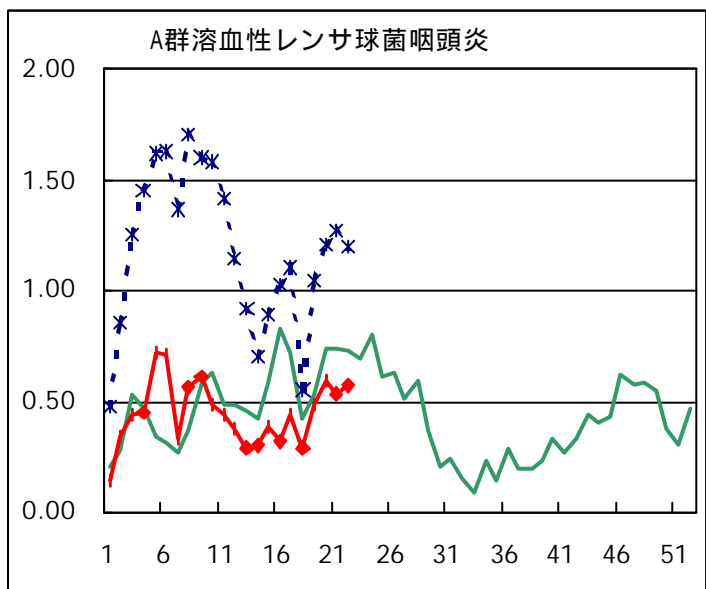
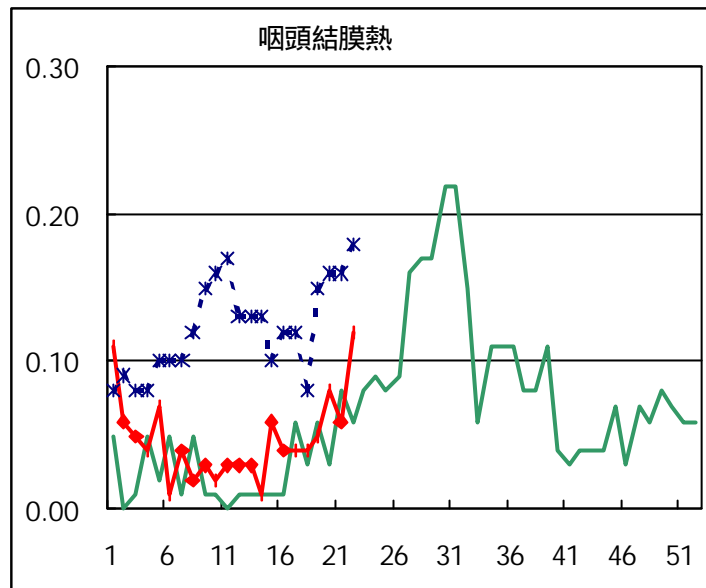
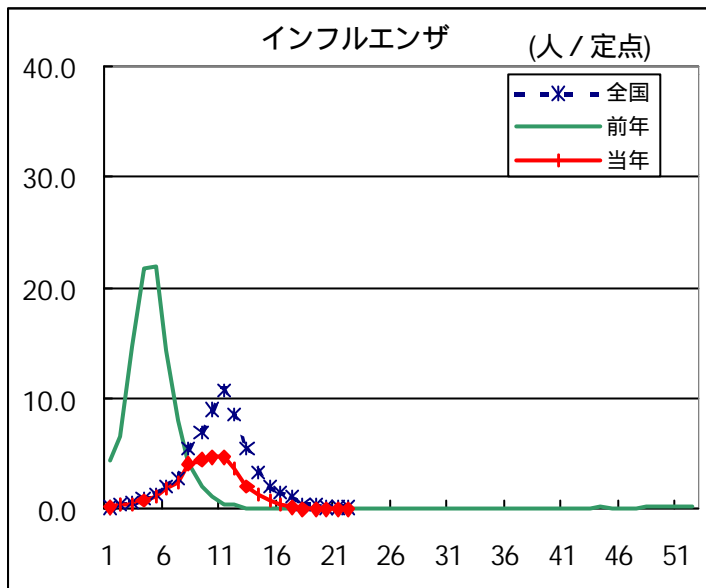
東京都分の集計は、医師からの追加届出により増加することがあります(2001/06/07集計)

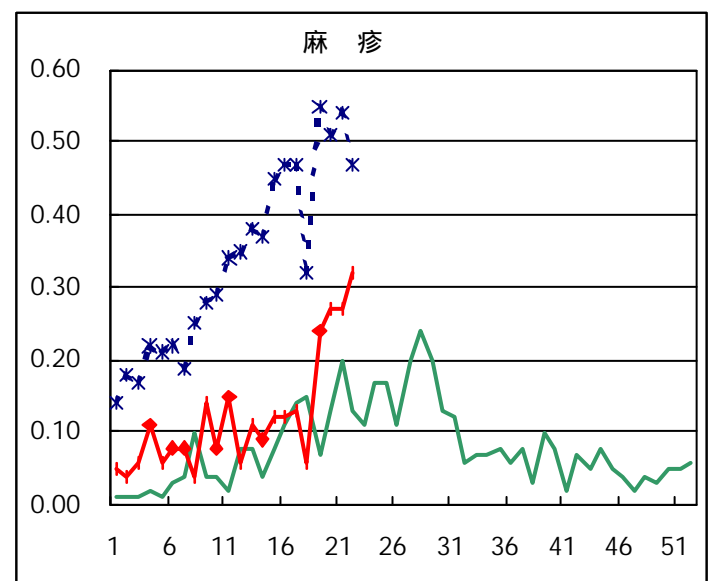
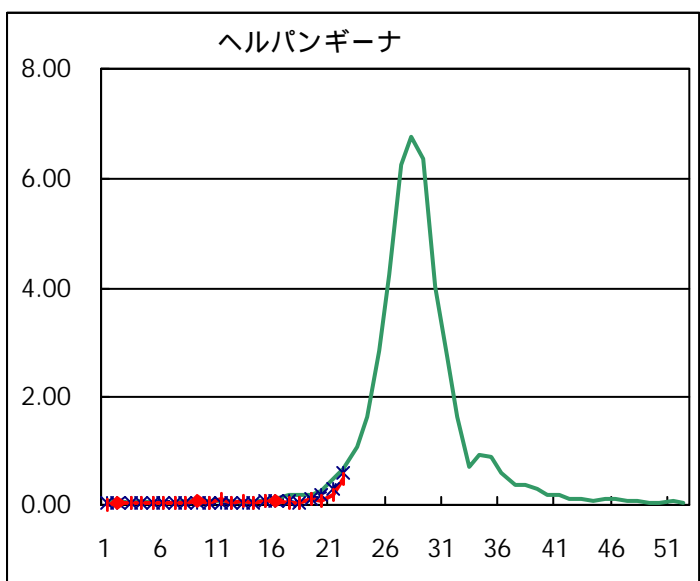
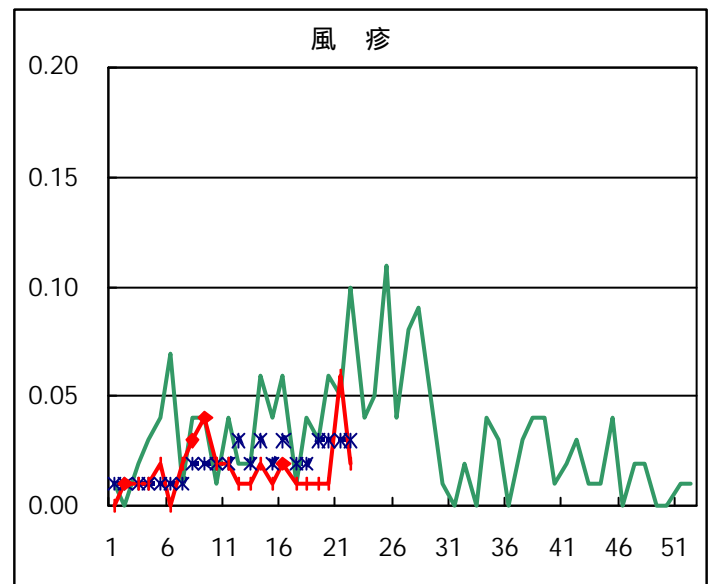
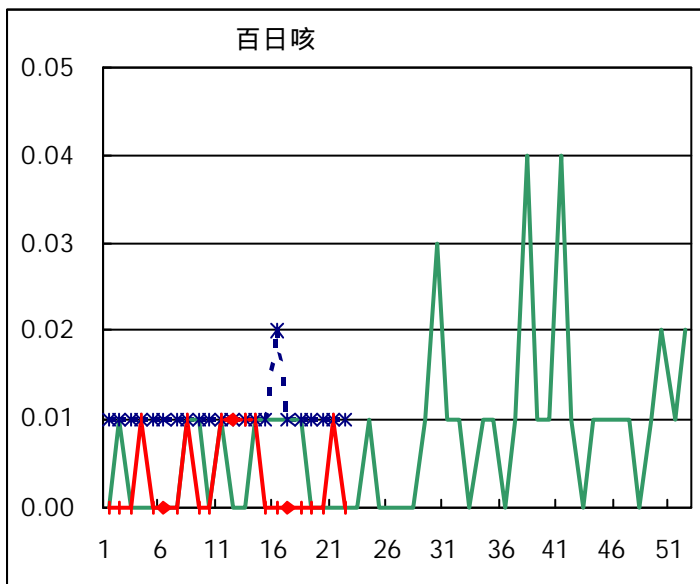
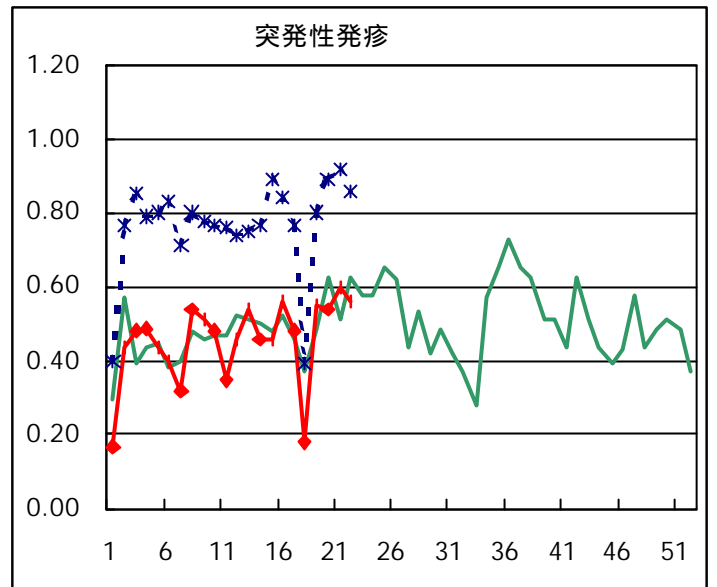
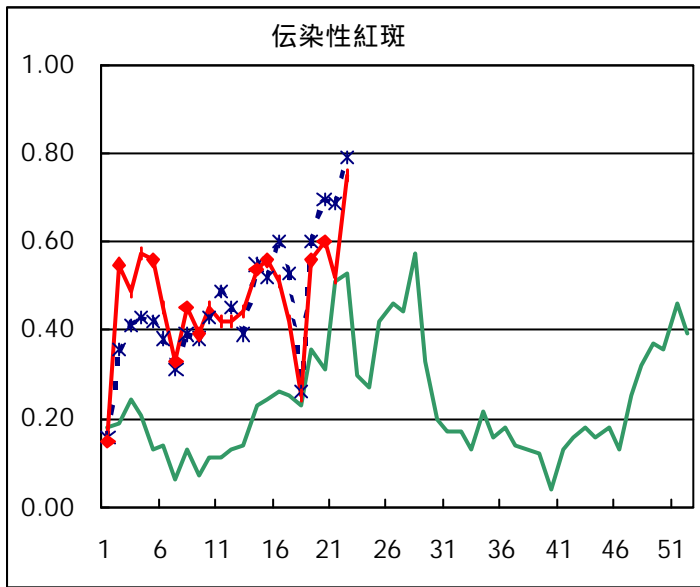
定点報告疾病集計表（男女別）

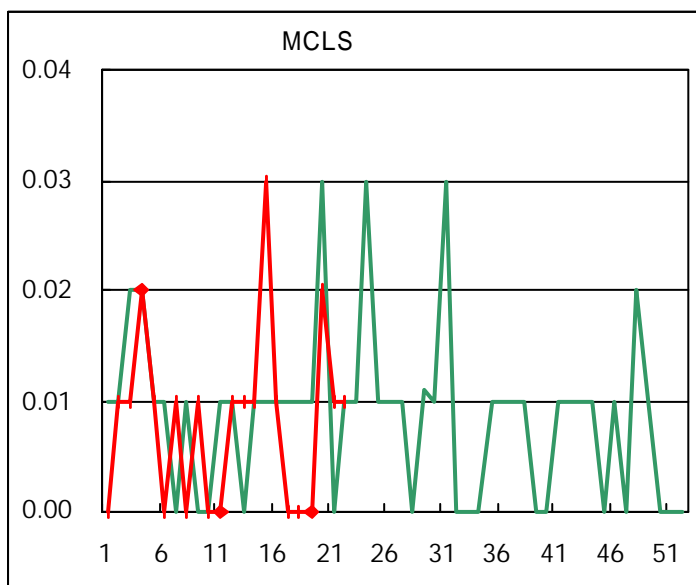
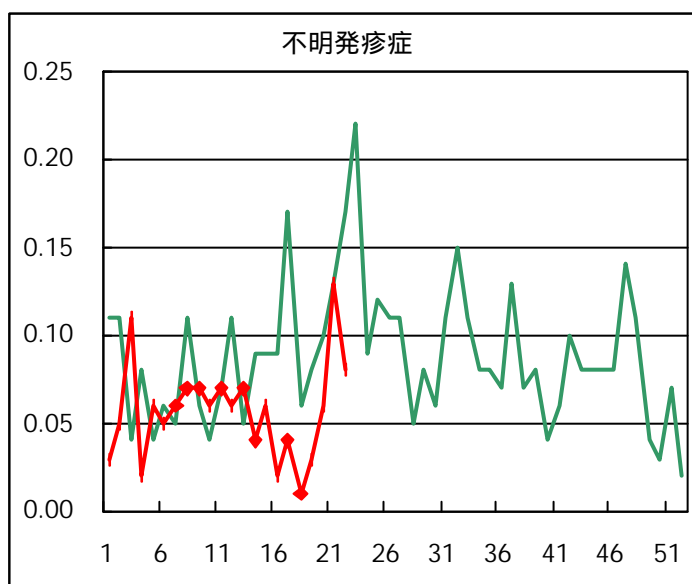
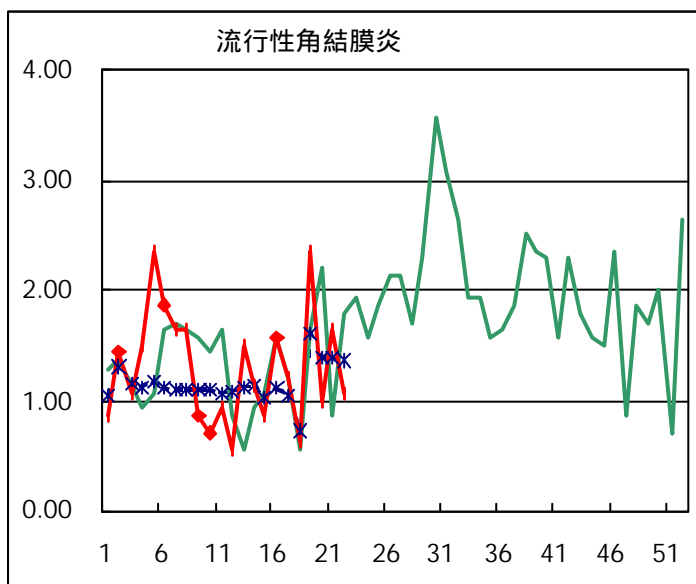
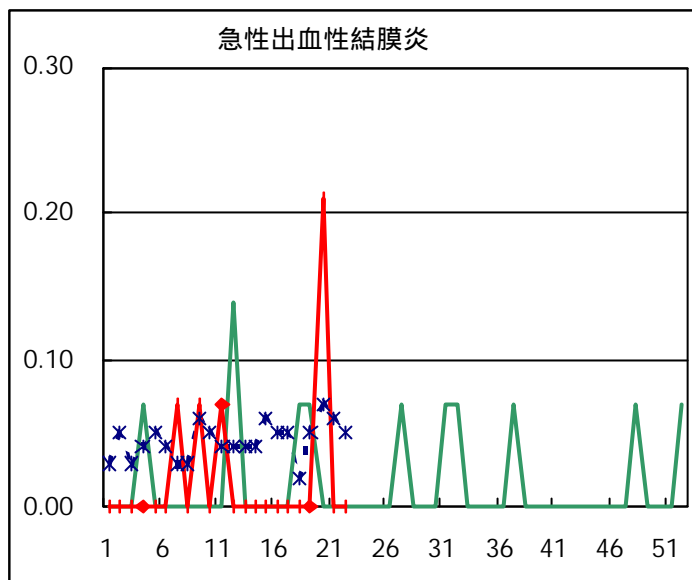
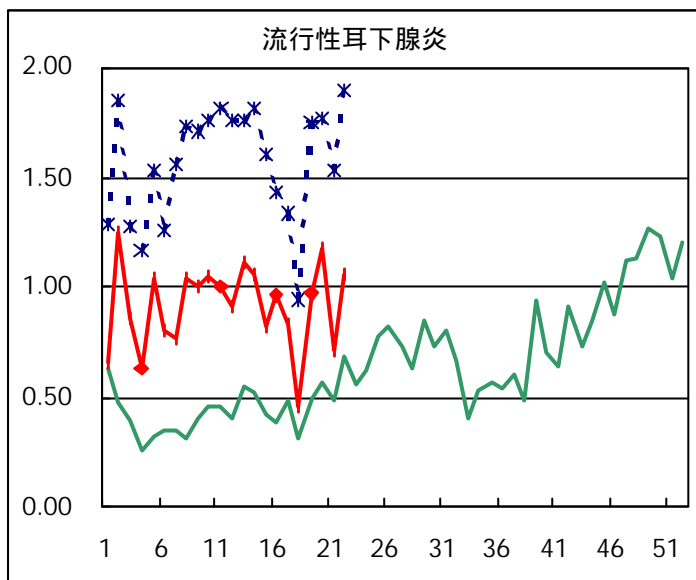
疾病名	性	2001年 週				累計
		19	20	21	22	
インフルエンザ	男	6				6
	女	6	1	2		9
咽頭結膜熱	男	4	7	4	9	24
	女	3	4	4	8	19
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	男	39	46	44	49	178
	女	30	38	31	32	131
感染性胃腸炎	男	244	244	221	225	934
	女	244	170	174	186	774
水痘	男	115	92	110	89	406
	女	141	83	95	64	383
手足口病	男	7	15	13	34	69
	女	5	11	19	28	63
伝染性紅斑	男	39	42	30	51	162
	女	41	43	44	56	184
突発性発疹	男	42	40	42	43	167
	女	36	37	43	37	153
百日咳	男			1		1
	女					
風疹	男		1	5	2	8
	女	1	1	3	1	6
ヘルパンギーナ	男	12	8	15	33	68
	女	5	5	12	34	56
麻疹(成人以外)	男	14	17	18	21	70
	女	20	21	20	24	85
流行性耳下腺炎	男	80	88	60	79	307
	女	58	79	41	71	249
不明発疹症	男	4	6	8	3	21
	女	4	3	10	9	26
MCLS	男		1			1
	女	4	2	2	1	9
急性出血性結膜炎	男		3			3
	女					
流行性角結膜炎	男	23	9	8	13	53
	女	10	5	15	2	32
急性脳炎（日本脳炎を除く）	男					
	女					
細菌性髄膜炎	男					
	女			1		1
無菌性髄膜炎	男	3		1		4
	女					
マイコプラズマ肺炎	男			1		1
	女					
クラミジア肺炎（オウム病は除く）	男					
	女					
成人麻疹	男	6	2	5	2	15
	女	6	5	4	3	18

「累計」欄は、当週を含む過去4週分の合計を示したものです。空欄は、報告がなかったことを示しています。

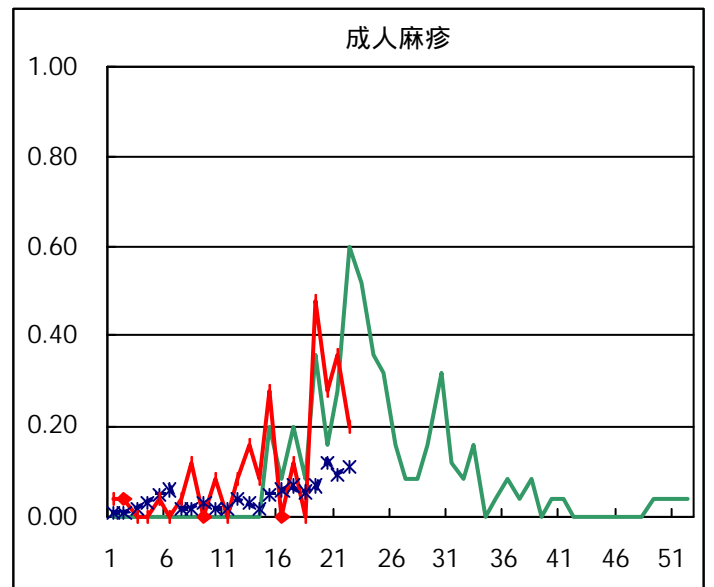
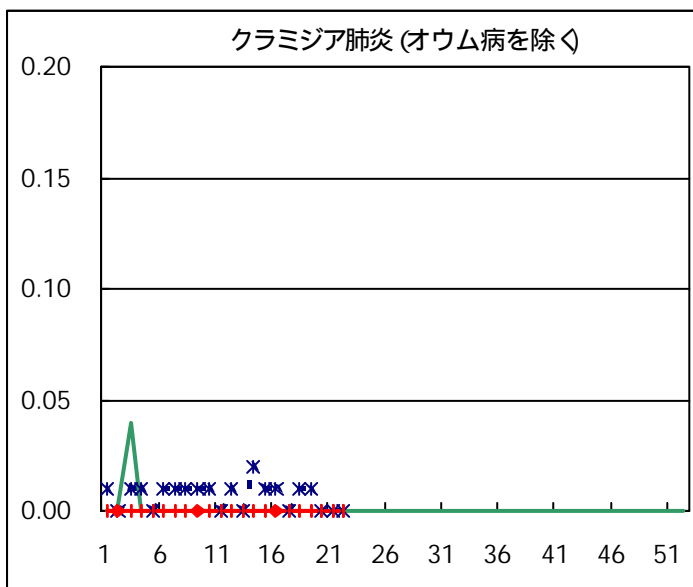
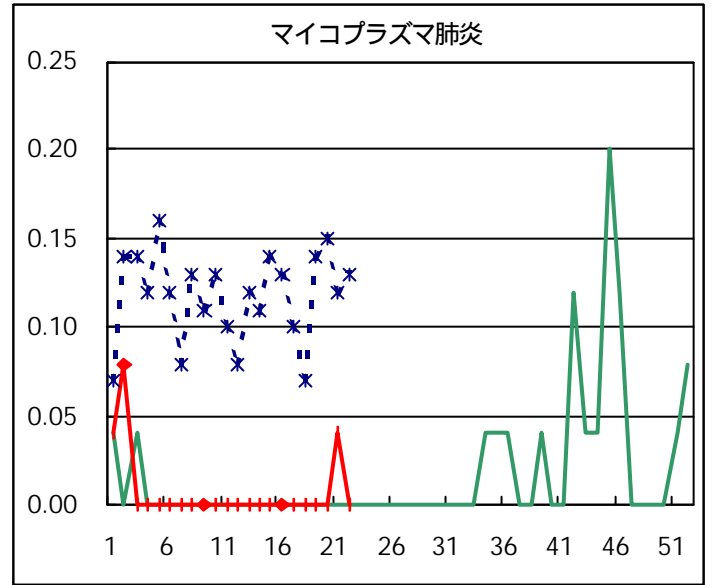
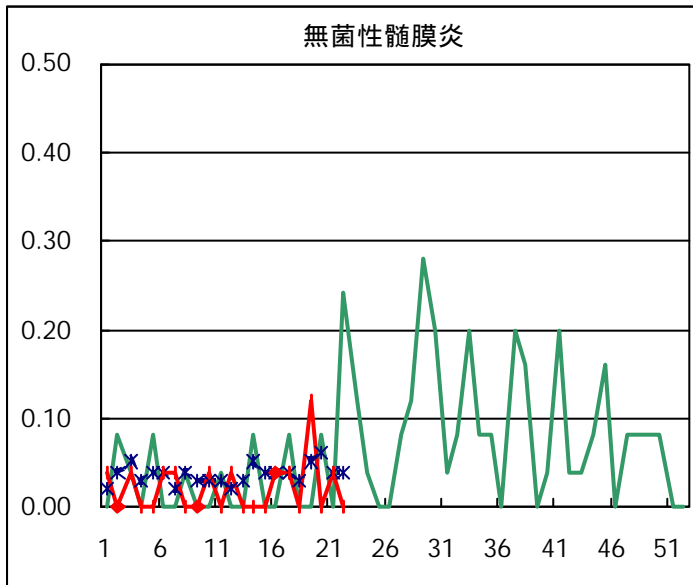
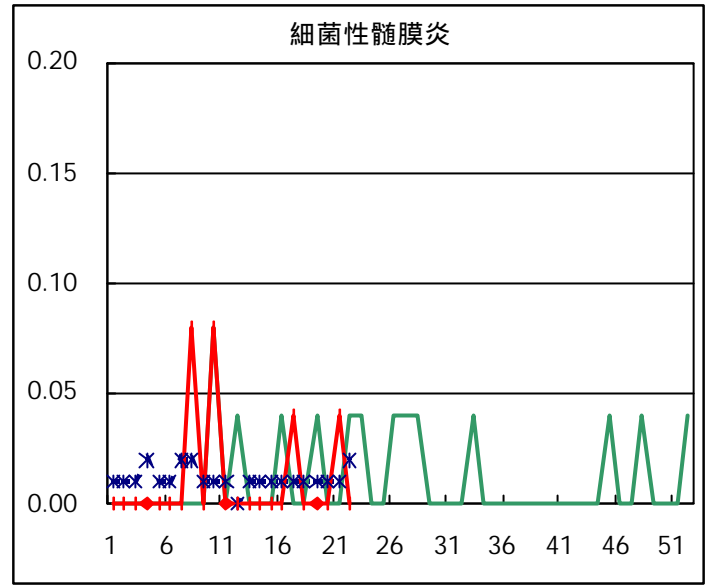
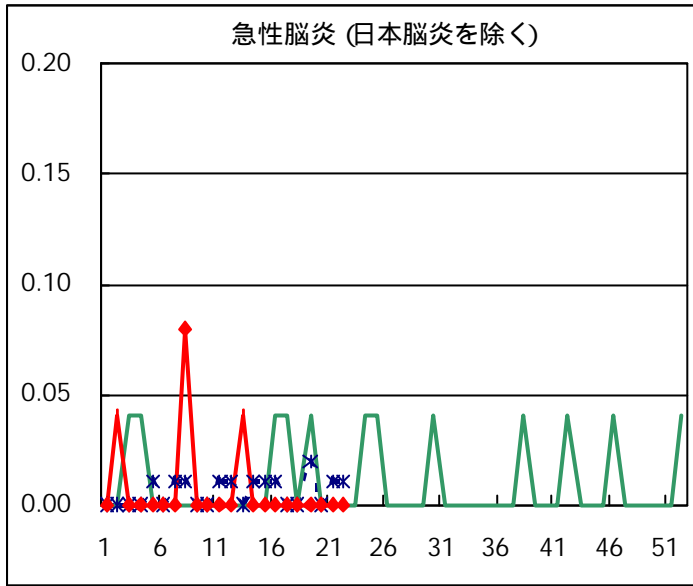
疾病別グラフ



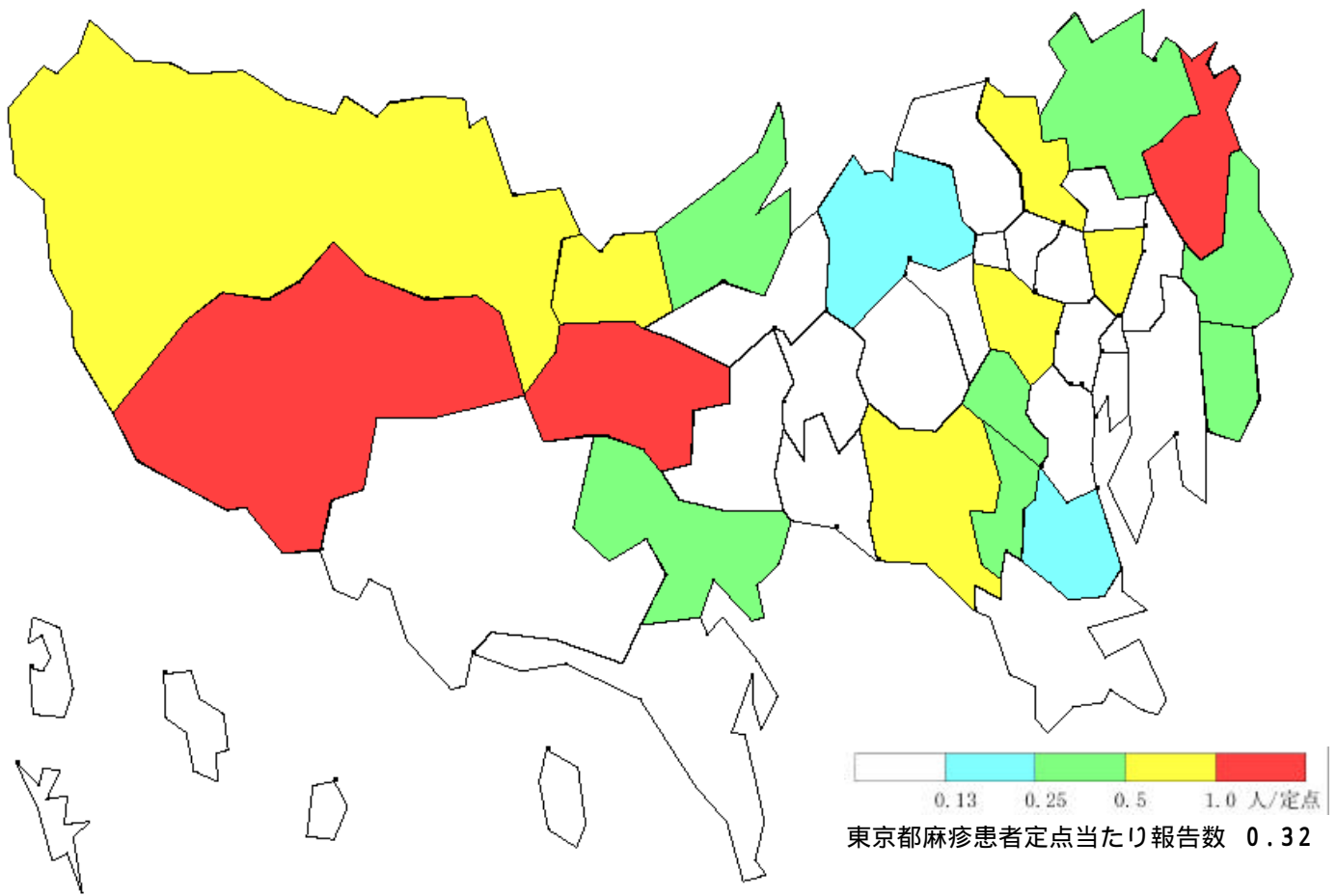




疾病別の定点医療機関数	
疾病	医療機関数
インフルエンザ	178
急性出血性結膜炎	14
流行性角結膜炎	
急性脳炎	25
細菌性髄膜炎	
無菌性髄膜炎	
マイコプラズマ肺炎	
クラミジア肺炎	
成人麻疹	142
上記を除く疾病	



保健所別麻疹患者定点当たり報告数



年齢階級別累計表 (2001年 22週)

	インフル エンザ	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発疹	百日咳	風疹	ヘルパン ギーナ	麻疹 (成人以外)	流行性 耳下腺炎	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎	不明 発疹症	M C L S
～ 6ヶ月				5	1			8			1	1				2	
～ 1歳				16	10	1	5	49			4	2	1			1	
1歳		3	2	39	24	8	5	22			19	6	6			3	
2歳		2	3	35	26	12	1	1			12	3	11		1		
3歳		3	5	46	29	13	10				11	2	22				
4歳		3	10	51	26	10	12				11	4	30		1	1	1
5歳		1	13	36	14	8	14				3	4	25				
6歳		1	16	30	9	4	17				3	6	18			1	
7歳			11	29	6	1	8					3	13			1	
8歳		1	6	15			12					2	7				
9歳			5	12	1	3	7					3	2			1	
10～14歳			6	25	5		8			2		3	10				
15～19歳				16	1		1				1	2	3		2		
20～29歳		3	4	56	1	2	7			1	2	4	2		1	2	
30～39歳															3		
40～49歳															3		
50～59歳															1		
60～69歳																	
70～79歳															3		
80歳以上																	
合計	0	17	81	411	153	62	107	80	0	3	67	45	150	0	15	12	1
先週比	-2	9	6	16	-52	30	33	-5	-1	-5	40	7	49	0	-8	-6	-1

注：小児科定点把握対照の疾病のうち、「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。

眼科疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

保健所別累計表 (2001年22週)

	インフル エンザ	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発疹	百日咳	風疹	ヘルパン ギーナ	麻疹 (成人以外)	流行性 耳下腺炎	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎	不明 発疹症	MCLS	合計
中央		2		1	2								2			1		8
世田谷			2	31	9	9	8	9				4	11					83
渋谷区		2	4	22	12	6	9	6				1	6					68
池袋													2		1			3
長崎				2				1										3
荒川					1		1	1					1					4
足立		1	6	12	6	2	7	1				1	4					40
葛飾		1	9	15	11		1	1				4	7					49
江戸川			6	18	9			4			1	1	5			1		45
台東			7	18	5	1	1	3			2	2	3					42
目黒区		1	1	7	5	3	4	4			1	1	1					28
大田区		3	1	16	6	2	8	5		2	11	1	14					69
杉並			2	8	3		1	2					2					18
北区			5	5	8	3	4	5			13	2	7					52
板橋区		1		6	2		5	3		1			5					23
みなと			3			2	1						3		2	1	1	13
中野区			6	26	3	5	1	3				1	8					53
新宿区			2	33	4	4	3	2				3	5		4	2		62
品川区			2	13	4	2	10	2			5	1	2			1		42
千代田					2								1					3
練馬区			2	7	4	3	7	2			1	1	6					33
文京				8									5					13
墨田区			2	3			4						1					10
江東区			4	19	3		1	3					7		2	1		40

保健所別累計表 (2001年22週)

	インフル エンザ	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発疹	百日咳	風疹	ヘルパン ギーナ	麻疹 (成人以外)	流行性 耳下腺炎	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎	不明 発疹症	MCLS	合計
八王子			3		4		4	4			1		5		3			24
町田			3	17	4	8	2	2			4		3			1		44
島しょ					2		2	2					8					14
多摩川			3	3	5	1	1	3				2	3					21
秋川			2	23	9	1	5	3			16	10	2					71
南多摩				28	9	2	4				4	1	3					51
多摩立川		1	3	7	3	2	5				1	7	6					35
村山大和				4			2	1			1	1			1	1		11
府中小金井			1	6	5	2		2					2					18
狛江調布		4		7	2		1				3		4					21
三鷹武蔵野				5	1			1					1		2			10
多摩小平				24	5	2	3	2					5					41
多摩東村山		1	2	17	5	2	2	3			3	1				3		39

東京都合計	-	17	81	411	153	62	107	80	-	3	67	45	150	-	15	12	1	1204
定点当り報告数	-	0.12	0.57	2.89	1.08	0.44	0.75	0.56	-	0.02	0.47	0.32	1.06	-	1.07	0.08	0.01	

東京都(平成12年度)におけるデングウイルス感染例

デング熱は、蚊が媒介するウイルス性の熱性疾患である。一般に症状は軽いが、時に出血傾向(デング出血熱)やショック(デングショック症候群)などを伴う重症疾患となる場合がある。

現在、デング熱は、熱帯、亜熱帯に位置するアジア、アフリカ、アメリカ大陸、南太平洋地域の100カ国以上で流行し、年間数十万人の患者が発生している。1998年には、WHOに120万人以上の患者の報告がされた。デング熱の流行地域は広く拡大し、患者数も劇的に増加しているため、世界の公衆衛生上の重要な問題となっている。

日本におけるデング熱の発生は、国内感染によるものではなく、全て海外輸入感染症例である。発病前10日以内の流行地域、特に東南アジア、南アジア、中南米への渡航歴が臨床診断上の重要なポイントとなっている。

1999年4月に施行された「感染症新法」において、デング熱は、4類感染症全数届出疾患に定められた。平成12年度には全国で26例、そのうち東京都では17例のデング熱患者が報告された(国立感染症研究所発行病原微生物情報)

当所においても、平成11年度より感染症発生動向調査にデングウイルスの検査を導入し、平成12年度は、感染症発生動向調査・検査定点病院から「デング熱疑い」で搬入された検体15件の検査を行った。その結果、9件(7名)がデングウイルス感染陽性と判定された(表1)

表1. デング熱患者の臨床症状及び検査結果

患者			発病日	血液採取日	海外渡航歴	臨床症状	検査結果		
No.	年齢	性別					イムノクロマト	ELISA	PCR/ウイルス分離
1	22	男	2000 4/2	4/7 (6病日)	スリランカ・インド	発熱(39)発疹、関節痛 筋肉痛、肝脾腫、上気道炎	IgM(+) IgG(-)	IgM(+)	(-)/(-)
2	43	男	2000 6/26	7/5 (10病日)	フィリピン	発熱(40)発疹、 出血傾向	IgM(+) IgG(-)	IgM(+)	(-)/(-)
3	24	女	2000 9/22	9/25* (4病日)	フィリピン	発熱(39)、発疹、 関節痛、筋肉痛	IgM(-)* IgG(-)*	IgM(-)*	(-)/(-)*
				9/30 (9病日)			IgM(+) IgG(±)	IgM(+)	(-)/(-)
4	52	男	2000 11/17	11/27 (11病日)	インド (11/11~11/21)	発熱(39)、発疹、 関節痛、筋肉痛、 肝機能障害	IgM(+) IgG(+)	IgM(+)	(-)/(-)
5	33	女	2000 12/27	1/2 (7病日)	インドネシア (9月中旬~12/25)	発熱(40)関節痛、 発疹、筋肉痛、出血傾向 脾腫、肝機能障害、	IgM(±) IgG(+)	IgM(+)	(-)/(-)
				1/4 (9病日)			IgM(±) IgG(+)	IgM(+)	(-)/(-)
6	26	男	2001 2/20	2/20 (1病日)	インドネシア (2/15~2/19)	発熱(39.3) 関節痛	IgM(-) IgG(-)	IgM(-)	(+)/(-)
7	49	男	2001 2/28	3/2 (3病日)	インドネシア (2/17~2/27)	発熱(39.6) 発疹	IgM(-) IgG(-)	IgM(-)	(+)/(+)
				3/15 (16病日)			IgM(+) IgG(±)	IgM(+)	(-)/(-)

*この時点ではデングウイルス感染の有無は確認できなかったが、その後の検体採取により感染を確認

表2. 主な世界のデング熱流行状況(ProMEDより抜粋)

発生年月	国名	記事
2000年2月	パラグアイ	首都で12,000人の患者が発生。
2000年3月	マレーシア	9,947人の患者報告があり、27人が死亡。
2000年3月	オーストラリア	93年から98年にかけて患者数が急増した。
2000年5月	インドネシア	ジャカルタで今年5,646人の患者が報告され、そのうち22例が死亡。
2000年7月	グアテマラ	3,500人の患者が報告されている。
2000年7月	アメリカ	バングラディッシュからの輸入感染が死亡。
2000年8月	ドミニカ共和国	今年これまでに663人の患者が報告されている。
2000年8月	エルサルバドル	患者総数1,875人、そのうち出血熱患者は221人で16人が死亡。
2000年9月	バングラディッシュ	今年これまでに4,127人の患者報告があり、77人が死亡。
2000年9月	ホンジュラス	5,037人の患者報告があり、出血熱患者は51人、死亡は2人。
2000年10月	スリランカ	デング熱流行のため40の学校と1大学の学校閉鎖を命じた。
2001年4月	タイ	今年の4ヶ月間で20,400人の患者が発生、死亡は43人。

デングウイルス感染の確認は、IgM、IgG抗体の検出、PCR法によるウイルス遺伝子の検出及びウイルス分離試験によって行った。IgM抗体検出によって感染を確認したものが、9件中7件と最も多かった。IgM抗体が陰性であった検体(No.6、7)は、発病初期(1、3病日)のものであり、ウイルス遺伝子及びウイルス分離が陽性になったことで、デングウイルス感染を確認することができた。また、No.3は、4病日の検体では、全ての検査法で陰性であった。

9病日の検体によりIgM抗体が検出され、感染が確認された。感染が確認された全ての症例は、発病前にフィリピン、インド、インドネシア等への海外渡航歴があり、臨床症状は、39以上の発熱、発疹、筋肉痛、関節痛等を呈していた。

海外旅行者数の増大、流行地域の拡大など、我々がデングウイルスに感染する機会も増加傾向にある。デング熱患者の発生を監視し、情報提供することが、更に重要になってくる(表2)

(ウイルス研究科 田部井由紀子)